

# 2019年度水環境文化賞を受賞して

琵琶湖博物館うおの会 会長 中尾博行

## 1. はじめに

この度は名誉ある水環境文化賞を受賞でき、大変光栄に思う。このような機会を与えてくださった日本水環境学会の皆様深く感謝を申しあげる。また、すべてのうおの会会員、歴代の会長や役員、琵琶湖博物館職員にも、厚く御礼申しあげたい。以下に活動の概要を述べ、これまでの歩みを振り返りたい。

## 2. 琵琶湖博物館うおの会とは

琵琶湖博物館うおの会は、琵琶湖博物館の「はしかけ制度」に基づき、主に滋賀県内で魚類調査活動を行っている団体である。はしかけ制度は、琵琶湖博物館の理念に共感し、同じような思いを持った人々が集い、より主体的に博物館を利用するための制度である。当会ははしかけ制度発足と同時の2000年に設立され、現在は小学校低学年から70代まで、様々な年齢層の会員約80名が活動している。会員は滋賀県のみならず、京都府、大阪府、兵庫県、岐阜県などからも参加している。

会の目的は、創設以来一貫して「魚とりを楽しむ」と同時に「楽しむだけでなく、データとして残す」ことである。

## 3. 活動の様子

4~7月、9~12月の第3日曜日に定例調査を実施し、冬季は会員の知識向上のための勉強会を実施している。定例調査では、タモ網、投網を中心に、サデ網やびんづけ（滋賀県の特別採捕許可を取得して使用）等も使用して魚類をはじめとした生物を採集する。採集された魚類は種別に尾数を記録し、魚類以外の生物も判別できる限り低位の分類群まで記録している。採集場所の環境条件として、川幅、水深、流速、底質、水温等も記録している。これらの情報は定型化された調査票に記録し、集計して電子データ化し、保管している。現在までに1万を超える地点の魚類相データが蓄積されている。

定例調査に加え、2005年から2007年は他団体と連携して「琵琶湖お魚ネットワーク」を設立し、その主体として調査や指導員養成、観察会運営などの活動を行った。また地域の環境学習や保全活動の支援として、学校、市町村の環境行政担当課、自治会などからの依頼により、自然観察会や講演会の講師を派遣している。

## 4. これまでの成果

調査結果の一部は論文<sup>1,2)</sup>、書籍<sup>3)</sup>、報告書<sup>4,5)</sup>として公表されている。2005年には琵琶湖博物館調査研究報告書

第23号として「みんなで楽しんだうおの会-身近な環境の魚たち-」を出版した<sup>4)</sup>。この報告書では魚種別の採集情報をGIS化して地図表示し、さらに記録された環境条件を分析して7区分し、魚種ごとの生息環境の特徴を明らかにした。一連の結果は、滋賀県レッドデータブック内で多くの魚種の生息状況を示す資料として引用されている<sup>6)</sup>。滋賀県において、水産重要種ではない魚種や、主要河川以外の水路等まで含めて網羅的に調査した事例は他に見当たらず、レッドリスト掲載種の選定において貴重な情報を提供している。2017年の日本生態学会では、これまでに収集したすべてのデータから、滋賀県内で魚類の多様性がとくに高い地域を抽出した多様性評価地図を取りまとめ、発表した<sup>7)</sup>。

## 5. おわりに

魚採りは理屈抜きにとっても楽しく、調査では子どもも大人も時間を忘れ、網を振るっている。魚の知識に関しては子どもが大人を凌駕することもあり、魚の前ではみな平等だと感じる。一方、種同定に迷って議論が巻き起こることもあり、会員の魚に対する思いはととても熱い。うおの会の活動が20年間にわたって続けてこられたのも、会員の魚への思いのおかげであろう。今後も楽しみながらデータを蓄積し、魚類を中心とした滋賀県の生物生息環境保全につながる活動を展開していきたいと考えている。

## 参考文献

- 1) 中島経夫、藤岡康弘、前畑政善、大塚泰介、藤本勝行、長田智生、佐藤智之、山田康幸、濱口浩之、木戸裕子、遠藤真樹、2001. 滋賀県湖南地域における魚類の分布パターンと地形との関係。陸水学雑誌 62(3), 261-270.
- 2) 水野敏明、中尾博行、琵琶湖博物館うおの会、中島経夫、2007. 琵琶湖流域におけるブルーギル (*Lepomis macrochirus*) の生息リスク評価。保全生態学研究 12(1), 1-9.
- 3) 中島経夫、うおの会、2011. 「魚つかみ」を楽しむ-魚と人の新しいかかわり方。新評論、東京。
- 4) 琵琶湖博物館うおの会、2005. みんなで楽しんだうおの会-身近な環境の魚たち-。琵琶湖博物館研究調査報告 23, 1-233.
- 5) 琵琶湖博物館うおの会、2007. 琵琶湖お魚ネットワーク報告書。WWF ジャパン、東京；琵琶湖博物館うおの会、草津。
- 6) 滋賀県生きもの総合調査委員会、2016. 滋賀県で大切にすべき野生生物：滋賀県レッドデータブック 2015年版。滋賀県自然環境保全課、大津。
- 7) 酒井陽一郎、うおの会、中尾博行、中川光、金尾滋史、松田征也、宮永健太郎、2017. 市民調査データを用いた生物多様性解析とその有用性-うおの会の魚類分布データを用いた滋賀県における淡水魚類の多様性評価と保全。第64回日本生態学会全国大会講演要旨。